

専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価 —平成 25 年度の結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生の授業満足度の把握と教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成 18 年度より授業評価を開始、平成 20 年度より本格的にアンケート結果の分析を進めてきた。これを実施することにより、各教員が担当している科目の授業内容を振り返り、次期あるいは次年度に活用することで授業の質の向上を目指した。しかし、授業アンケートを進めていく中で、このアンケート結果を個々教員の授業改善だけでなく全教員がある一定の教授力を持てるように活用することで教育の質の担保ができないかと考え、平成 23 年度に授業アンケートのリニューアルを実施し、久留米リハビリテーション学院の授業における教員の取り組みや学生の満足度を広く公開することとした。

【学生による授業評価】

1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項と本学院の特徴である e-school に関する事項とした平成 22 年度までの授業アンケートと同様の項目を大項目とした。細項目については、一部の文言を修正、各大項目における項目数の見直しを行った。大項目および細項目については、以下に示す。

(1) 教員の授業の進め方

- ① 授業担当者は、授業の目標や内容を明確に示していた。
- ② 授業担当者は、指定された教科書あるいは参考書の活用方法を提示していた。
- ③ 講義時間と実技実習時間の配分は適切だった。(該当科目のみ)
- ④ 授業担当者は、効果的に学生の参加（発言等）を促した。
- ⑤ 授業担当者は、学習に対する適切な助言を与えてくれた。

(2) 教員の伝え方

- ① 板書および配布資料などは、効果的であった。
- ② 授業担当者の話し方は、聞き取りやすかった。
- ③ 授業担当者の説明は、分かりやすかった。
- ④ 実習や国家試験に活かせる知識、技術を習得することができた。

(3) 教員の関わり方

- ① 授業担当者の授業に対する熱意を感じた。
- ② 授業担当者は、学生の迷惑行為（私語）を注意し、適切な授業環境を保つことに努めた。
- ③ 授業担当者は、学生の質問や相談に対し適切な助言を与えてくれた。

(4) パソコンや教材の活用

- ① 授業担当者は、パソコンのスライドやメディアなどを効果的に活用していた。
- ② 自分は、この授業の学習（授業・自己学習）においてパソコンを効果的に活用できた。
- ③ 指定された教科書や参考書は学習内容を理解するのに役立った。

(5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業を受けて、学習意欲が高まった。
- ② 自分は、この授業に意欲的に取り組んだ。
- ③ 総合的にみて、この授業は満足できるものであった。

2. 評価の方法および集計方法

平成 22 年度までの授業アンケートにおいては、上記の評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「強くそう思わない」の 4 つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらい、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」とした。しかし、平成 23 年度より、選択肢を「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「強くそう思わない」の 5 つの選択肢に変更した。また、「無回答」は、回答対象者のうちアンケート実施日に欠席した学生数とした。また、感想・意見・希望などについては、前回のアンケートより変更せず自由に記載してもらった。

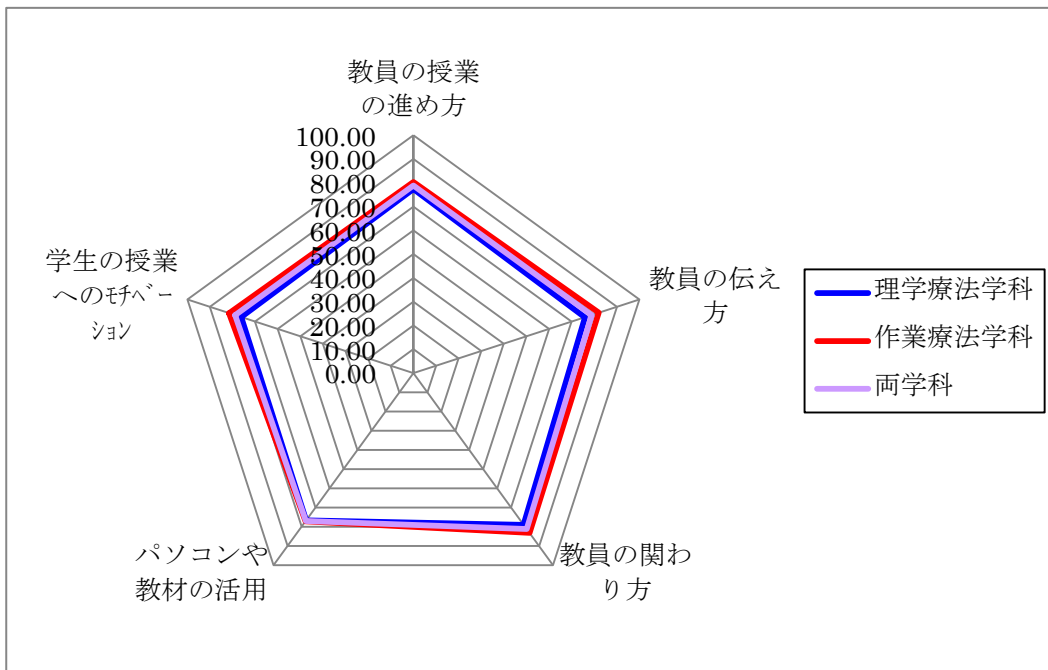
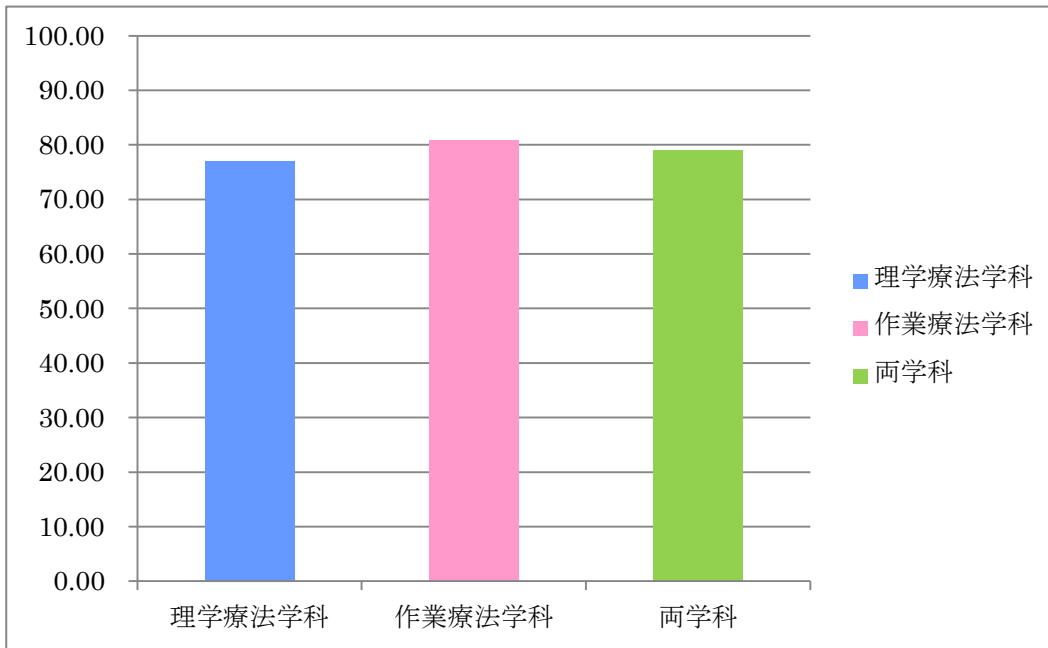
集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として 100 点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

「強くそう思う」	: 5 点
「そう思う」	: 4 点
「どちらとも言えない」	: 3 点
「そう思わない」	: 2 点
「強くそう思わない」	: 1 点
「無回答」	: 0 点

3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

	理学療法学科	作業療法学科	両学科
教員の授業の進め方	77.36	80.34	78.85
教員の伝え方	75.84	82.00	78.92
教員の関わり方	78.94	83.14	81.04
パソコンや教材の活用	76.65	77.20	76.93
学生の授業へのモチベーション	76.21	81.51	78.86
総合 score	77.00	80.84	78.92



授業アンケート集計結果 平成 23 年度と平成 24 年度の比較

	理学療法学科		作業療法学科		両学科	
	H24	H25	H24	H25	H24	H25
教員の授業の進め方	76.43	77.36	78.78	80.34	77.61	78.85
教員の伝え方	74.83	75.84	83.05	82.00	78.94	78.92
教員の関わり方	79.97	78.94	84.78	83.14	82.38	81.04
パソコンや教材の活用	73.49	76.65	79.01	77.20	76.25	76.93
学生の授業へのモチベーション	76.07	76.21	84.04	81.51	80.06	78.86
総合 score	76.16	77.00	81.93	80.84	79.05	78.92

(学生による自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
基礎生理学 (OT・PT)	説明がとてもわかりやすく、イメージが付き、早く理解することができました。／とても分かりやすく、どんなに難しい文章でも先生の説明を聞いたら全部分かり読めるようになりました。とても分かりやすい授業ありがとうございました。／難しく書いてある教科書をとても分かりやすく授業して下さりありがとうございました。
作業治療学Ⅲ (OT)	先生の声が聞き取りやすく、わかりやすい。2年次の振り返りがあり、応用的に考えることのできる知識がない事が改めてわかった。
基礎作業学演習Ⅱ (OT)	劇をやってみて楽しいと思えた。自分から取り組むことも大事だと思えたので、積極的に取り組もうと思います。絆が深まった。恥ずかしいと思うことも出来るようになってよかった。子供達との交流は良い思い出になった。体も動かして良かった。
臨床心理学 (OT・PT)	いつも使っている「性格」という言葉が、実はこんなに細かい意味があることを知れたのでよかった。 子供の成長する心理がわかった。
応用作業学 (OT)	作業が好きなので、楽しみながら学ぶ事が出来て良かったです。この授業では普段しない木工や陶芸を通してダイナミックな動きとともにリスク管理の重要性が分かった。
生物 (PT・OT)	授業に対して熱心に教えて下さり、とても生物という難しい教科を分かりやすく教えて下さり楽しくできました。
基礎運動学Ⅰ (PT・OT)	筋の走行や歩行の説明を体を使って分かりやすく説明して下さいだったので、とても分かりやすかったです。
リハビリテーション概論 (PT・OT)	自分の気持ちや学習に対する思いを考え直す良い授業でした。今やるべきことを真剣に教えてくれたりして、本当に学習意欲を高めてもらえました。
物理療法 (PT)	物理療法の細かな部分まで学ぶことができた。また、禁忌・適応に関しては、これからの臨床の場で必要となるので、しっかり復習をして知識を身につけたいと思う。
理学療法評価学実習Ⅰ (PT)	実技時間の配分等もちょうど良いと思う。/とても分かりやすいいい授業だった！/動作分析を授業のはじめにゲーム感覚でやると意外にいいかもです。/実技をたくさんできてよかったです！！/小テストとかも入っていたので、見直す機会とかも多くあったので、よかったです。テスト頑張りますので、激甘でお願いします！！
運動器障害理学療法学Ⅰ (PT)	わからない、わかりにくい点を丁寧に教えて下さり良かったです。/雰囲気がとてもよかった。一番好きな講義だった！/一年間、有難うございました。
理学療法概論Ⅱ (PT)	理学療法士になった時にどんなことが大事なのかなどをしっかりと学べたのでよかった。

授業評価総評

例年、久留米リハビリテーション学院では「授業評価」をとっています。

本来であれば昨年度の比較からお話をしなければならない所ですが、平成 25 年度よりカリキュラムの変更があり、単純比較することはできません。そのため平成 25 年度の授業評価単体で総評をつけて公開します。[授業評価の詳細は昨年度のパナーを参照してください。](#)

先ず理学療法学科ですが、平成 25 年度前期の総合評価が 77.35 ポイント、平成 25 年度後期の総合評価は 76.65 ポイントであり、0.7 ポイント下がりました。詳細を見ていくと「授業の進め方」では 0.93 ポイント、「教員の関わり方」で 0.3 ポイントの上昇が見られます。逆に低下した項目は「教員の伝え方」で 1.67 ポイント、「パソコンや教材の活用」で 1.82 ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では 1.24 ポイントでした。全体的に低下したのは残念ですが、「授業の進め方」で上昇し「教員の伝え方」で低下しているのは、前期よりも後期授業内容の専門性が増し、難しいと感じる事が多かった為だと考えます。その事が「学生の授業へのモチベーション」の低下につながってしまったのではないのでしょうか。

低下したと書いていますが、全体として 77%の評価をいただいているので特筆して悪いという事ではありません。ですが、さらに良い講義ができるように努めていきたいと考えます。

次に作業療法学科ですが、平成 25 年度前期の総合評価が 81.07 ポイント、平成 25 年度後期の総合評価は 84.50 ポイントであり、3.43 ポイント上がりました。詳細でも全ての項目で 2~5 ポイントの上昇がみられます。上昇率で一番大きかった項目は「パソコンや教材の活用」で 5.52 ポイント上昇していました。これに関しては講義内容の専門性が高くなったと同時にイメージで覚えてもらうために、当学院の特色でもある e-school システムを活用し動画等の配信を多くしたからではないかと考えます。また、「授業の進め方」で 4.06 ポイント、「教員の伝え方」で 3.18 ポイントの上昇がみられる事で「学生の授業へのモチベーション」が引き出せたのではないかと考えます。

結果として 82%以上の評価をいただきましたが、慢心せず、より良い講義ができるように取り組んでいきたいと考えます。

「学生の授業に取り組む姿勢」が一番重要ではありますが、やはり教員の講義が良いものでなければ、「学生の取り組む姿勢」に影響を与えてしまいます。当学院では昨年度との比較もしますが、前期、後期で授業評価を取り、それに対する振り返りや改善への取り組みを行っています。結果が悪ければ問題点や課題を見つけることは難しくないのですが、良かった時こそ、きちんと振り返りをして、さらに良いものとしていかなければいけないと考えます。

今回の結果を踏まえ、各担当教員には「講義実施に関する課題とその対応」を認識してもらい、より良い講義となるように次年度以降の講義に取り組んでもらっています。

平成 26 年 2 月吉日

久留米リハビリテーション学院

教務委員長 井ノ口 征幸